



— 大河は流る：夢の翼は技術士 —

東京都市大学柏門技術士会創設者・相談役 **五艘 章**（技術士）

略 歴：昭和18年生、富山県出身、富山県立富山高等学校卒、武蔵工業大学工学部土木工学科昭和41年卒
資 格：技術士（総合技術監理・建設）、APECエンジニア、土木学会フェロー・特別上級技術者
職 歴：前田建設工業（株）昭和41年～平成10年）、日本建設コンサルタント（株）平成10年～平成15年）
武蔵工業大学非常勤講師（平成12年～平成24年 科目：コンストラクション・メソッド）

平成28年10月30日、昭和41年卒業生883名が卒業50周年ホームカミングデイに招待され、50年間の人生の荒波を乗り越えて故郷に凱旋した96名の代表として五艘が挨拶をする栄誉を与えられました。挨拶文の概要に加筆して報告します。

『皆さん・・・静かに耳を澄ませて下さい・・・母校の大河の流れが聞こえてきます』

私は50年前、武蔵工業大学工学部土木工学科を卒業した五艘章です。本日のホームカミングデイに招待された同期の仲間を代表して御挨拶を申し上げます。今日、我々は多摩川から人生の大海原に乗り出して50年、公正・自由・自治の教えを胸に、荒波を乗り越えて青春の故郷に帰って参りました。謹んで感謝の意を込めて母校の皆さまに御報告申し上げます。『ただいま！！』

挨拶の前に柔道の創始者・嘉納治五郎の教育観を紹介します。嘉納は教育の重要性を説き柔道修行者に「柔道以外の分野で活躍する事」を望み、多くの人材を世に送り出した。

1. 教育之事 天下莫偉焉 一人徳教広加万人 一世化育 遠及百世
(教育のこと 天下より偉なるはなし 一人の徳教 広く万人に加わり 一生の加育 遠く万世に及ぶ)
2. 勝つにしても道に順って勝ち、負けるにしても道に順って負けなければならぬ。
負けても道に順って負ければ、道に背いて勝ったより価値がある
3. 自他共栄 (じた きょうえい)
4. 力 必 達 (つとむれば かならず たつする)

御承知の通り、母校は金融恐慌、世界大恐慌の嵐が吹き荒れる昭和4年、慶応大学教授・及川恒忠と86名の教師、378名の生徒により電気・建築・土木の3工学科を有する武蔵高等工科学校として誕生しました。小さな源流は昭和29年、中興の祖、五島慶太、八木秀次の尽力、それを受継いだ名誉総長・中村英夫先生の類いまれな指導力により6学部18学科を擁する総合大学・東京都市大学の大河に成長しました。今年1月には「青春の夢に翼を与え、世界300位以内の大学を目指す」と大なる野望に燃える三木千壽学長によりオーストラリア・エディスコワン大学に留学生206名を送り込んでいます。母校は本学を愛する多くの方々の熱い教育のタスキを受け継ぎ、卒業生10万人を擁する学園に成長しました。母校の発展に感動しています。心から感謝の意を表します。

我々が入学した昭和37年は太平洋戦争の敗戦から17年、事務局は木造のボロ屋、コンクリートの校舎は体育館、他の数件、校庭は泥が剥き出しで雨にぬかるみ、1本の柏の木が印象的でした。

五島慶太は昭和30年に鉄筋コンクリート校舎建設10か年計画に着手し、35年には大東急の支援をバックに日本の大学で初の原子力研究所が開設される。部員が100人を超える空手道部が全日本学生空手道選手権に優勝、就職状況も良い。地方の高校では「将来、武蔵工大は日本一の工業大学に成る」と高く評価し全国から優秀な学生が受験、入学者の70%は浪人でした。

当時の日本は経済大国への幕開けで民間設備投資、東海道新幹線、黒四ダム、名神高速道路、愛知用水、青函トンネル建設などの最盛期でありました。学生達は科学技術立国を担う技術者を目指して「早稲田、慶応なにをするものぞ！！」の気概と誇りが溢れていました。

創設者・及川恒忠は「正しい事を正しく行えば、如何なる障害、如何なる困難に遭遇するとも朗らかに進め得るものである。校舎はバラックでも「志ある者は事つひに成る」は千古不滅の真理であると教え、教育方針は「先ず心身を鍛えよ」でした。ボロ校舎では教職員による情熱溢れる熱い人間教育が行われ、新入生歓迎会は新入生、恩師、先輩が全員参加し、校歌、寮歌、応援歌・柏の大

樹を歌い呑み踊る元気溢れるものでした。新入生は全員が部活動に汗を流し、試験の時は部活動を休み勉強する事が当たり前でした。

昭和39年8月 柔道部富山合宿：武蔵工大・富山大学富山高校合同稽古：(於) 護国神社・富山県武道館・錬成館



自由が丘(柏葉学舎)と尾山台(清和寮)に100名収容の学生寮があり、完全自治・2食付き3800円。学生部長・井上忠夫先生が舎監として、戦後から数十年、家族を挙げて寮生を可愛がり、多くの人材が輩出しました。学生達は将来の夢を抱き「ボロは着てても心は錦」そのものでした。

昭和41年に母校を巣立った883名の仲間は常に背中に武蔵工大を背負い、公正・自由・自治の校訓を胸に、社会の荒波と闘い、並み居る他大学出身の技術者と競って来ました。

昭和41年3月 土木工学科卒業生(126名)による謝恩会 (於) 椿山荘



武運に恵まれ企業のトップに栄進した者、武運つたなく社会の一隅を照らしている者と様々ですが、公正に正々堂々と生きてきた同期の仲間は全てが母校が誇る錦であります。

博士は科学の学理研究を担い、学理を現場技術に応用するのが技術士です。平成16年9月、武蔵工業大学は日大、東京工大、早大に次いで4番目の大学技術士会として柏門技術士会を創設し、会員数は400有余名(全国の国公立大学第5位)を誇っています。

後輩諸君は母校に誇りを持ち、夢に技術士の翼を与え、世界を舞台に活躍し、母校に錦を飾り、母校を世界の人財大河に育つ事を期待しています。

終りに今日のホームカミングデイに招待して頂いた学校関係者、全ての皆様に深い感謝の意を表し、母校の益々の発展を祈念して挨拶とします。有難う御座いました。(感謝)